



株式会社三浦造船所

【佐伯市】

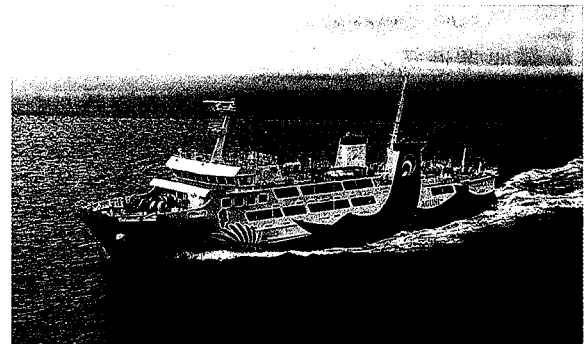
創業60周年

「お客さまへの感謝をQualityに込めて」さらなる飛躍へ

株式会社三浦造船所（佐伯市、代表者：三浦唯秀氏）は、今年11月に創業60周年を迎える。同社は「特殊船の三浦造船所」と呼ばれ、内外航船を問わず、貨物船、油送船、セメント運搬船、LPG運搬船、石炭運搬船、石灰石運搬船、フェリーなど多種多様な船種を、高い安全性と低燃費、斬新なデザイン、高品質の船舶が建造可能な高い技術を有する県内有数の造船所である。1960年の創業以来、経営理念「お客さまへの感謝をQualityに込めて」を掲げて業務に取り組み、顧客からの高い評価を受けて、好業績を継続している。

2020年3月期決算は、新造船の引渡が8隻となり、総売上高は117億8,500万円で、15期連続の100億円以上となった。経常利益は6億4,900万円となり、こちらも15期連続の黒字決算となった。過去最高の売上高となった2019年3月期からは減収となったが、翌期に引渡し船舶が多くなったため、2021年3月期の引渡は13隻と近年では最多となる予定だ。

さらに、従前から行っている協力会社への生産奨励金支払を継続して負担しており、協力企業と一体となった生産性の向上や労働環境の整備に取り組んでいる。そのなかでコスト削減も進み、2億円内外の減価償却を実施しながらも安定した利益を計上している。このため、自己資本比率は48.1%（純資産額76億円）と業界水準を約12ポイントも



7月9日に竣工した旅客船兼自動車渡船

上回り、高位な体力を保持している。

また、今年3月には、佐伯市立図書館のネーミングライツを取得して、同図書館は「三浦造船佐伯図書館」、館内の視聴覚センターは「三浦造船視聴覚センター」となっており、市民の教養と文化を高め、憩いの場として親しまれるよう地域社会の貢献活動にも積極的に取り組んでいる。

当期は節目の記念事業年度であり、快適職場への取り組みとして新事務所を増設、7月には北海道の流水見学ツアーに利用される流水観光船（砕氷船）の進水式を行うなど、建造は計画どおりに進行している。総売上高は過去最高の142億円を見通しており、さらなる飛躍が期待される。

〈 業績推移 〉

（単位：百万円）

	2018年 3月期	2019年 3月期	2020年 3月期
総売上高	12,550	14,051	11,785
営業利益	909	864	629
経常利益	903	860	649
当期純利益	493	538	430
減価償却額	349	209	190
純資産額	6,697	7,205	7,604
資産総額	15,244	16,112	15,795

●企業データ

商号：株式会社三浦造船所

TDB企業コード：830054194

所在地：佐伯市鶴望4900

代表者：三浦 唯秀氏

資本金：1億円

電話：0972-22-2033

創業：1960年11月 設立：1964年10月

事業内容：鋼船建造・修理

URL：<http://www.mjurazosen.jp/>

法人番号：1320001009123